



平成30年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年8月4日

上場会社名 株式会社 ミツウロコグループホールディングス

上場取引所 東

コード番号 8131 URL <http://www.mitsuuroko.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長グループCEO (氏名) 田島 晃平

問合せ先責任者 (役職名) 取締役トレジャラー・ファイナンスセンター長 (氏名) 児島 和洋

TEL 03-3275-6300

四半期報告書提出予定日 平成29年8月8日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	44,828	1.2	633	21.5	999	9.1	618	20.3
29年3月期第1四半期	44,313	5.9	807	1.3	1,098	3.5	775	

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 1,312百万円 (495.3%) 29年3月期第1四半期 220百万円 (43.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	9.90	
29年3月期第1四半期	12.11	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第1四半期	127,927	74,619	58.1	1,189.97
29年3月期	131,537	74,482	56.4	1,187.14

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 74,308百万円 29年3月期 74,131百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期				18.00	18.00
30年3月期					
30年3月期(予想)				18.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	93,000	3.8	600	29.0	1,000	23.8	700	19.8	10.99
通期	207,000	0.6	4,000	2.7	4,800	1.2	2,800	3.8	43.96

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	68,137,308 株	29年3月期	68,137,308 株
期末自己株式数	30年3月期1Q	5,691,459 株	29年3月期	5,691,451 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	62,445,851 株	29年3月期1Q	64,052,062 株

(注) 期末自己株式数には、「資産管理サービス信託銀行(株)(信託E口)」が保有する当社株式(平成30年3月期1Q 293,100株)が含まれております。また、「資産管理サービス信託銀行(株)(信託E口)」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。(平成30年3月期1Q 293,100株)

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済情勢は、政府の経済政策等を背景に企業収益や雇用環境など緩やかな回復基調にあり、個人消費においても、堅調な雇用・所得情勢を受けて緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、世界経済においては、中国を始めとする景気の減速や、米国や欧州の政治動向など、不安定な状況で推移いたしました。

当社グループを取り巻く経営環境におきましては、消費者の「省エネ」意識の定着から世帯あたりのエネルギー使用量は減少傾向にあり、さらに小売市場において消費者の選択志向が強まるなど、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

平成29年4月より、自由が丘に3店舗目をオープンした「カールスジュニア」に加え、ベーカリー「麻布十番モンタボー」やカフェ「元町珈琲」、両ブランドのノウハウを踏襲した新ブランド「モトマチ コーヒーアンドブレッド」を運営する株式会社スイーツスタイルが当社グループに加わるなど、フード&プロビジョンズ事業の拡充をはかるとともに、LPガスお客様向け駆けつけサービス「ミツウロコあんしんバリュー」やミツウロコでんき需要家向けサービス「ミツウロコでんき安心サポート」の展開など、お客様に安心・安全・快適なサービスの提供に努めてまいりました。

こうした状況下、石油製品全般において原油価格の上昇による影響を受けた一方で、様々な業務コスト削減策の取り組みにより経営の合理化を進めるとともに、エネルギー事業の拡大を図るため新規顧客の獲得や各事業での積極的な展開に努めた結果、当連結会計年度の売上高は前年同期比1.2%増の448億28百万円、営業利益は前年同期比21.5%減の6億33百万円、経常利益は前年同期比9.1%減の9億99百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比20.3%減の6億18百万円となりました。

各セグメントの状況は次のとおりです。

(エネルギー事業)

LPガス事業については、販路拡大施策を通じ販売数量が増加いたしました。消費者の“省エネ”意識の定着により引き続き使用量減少傾向にあります。

このような状況下、既存のLPガスに通信事業「ミツウロコ光」と昨年4月から提供を開始した「ミツウロコでんき」をあわせ、ガス+光+電気によるセット販売で新たな顧客獲得を展開しております。また、駆けつけサービス「ミツウロコあんしんバリュー」や「ミツウロコでんき安心サポート」もメニューに加え、お客様への安心・安全の品質向上に努めております。

石油事業では、昨年度に中古車買取事業において「カークル」3店舗を新規出店し、計7店舗と事業拡大を図ってまいりました。

しかし、消費者の選択志向の強まりや、原油価格の上昇による影響を受けたことにより、売上高は前年同期比12.0%減の293億96百万円、営業利益は前年同期比34.9%減の5億5百万円となりました。

(電力事業)

小売電気事業では、平成28年4月よりスタートした電力の小売全面自由化に伴い、低圧電力の販売増加に加え、市場での低廉な電力への注目度の高まりから従前の高圧電力販売の需要も増加いたしました。また、昨年度より、ミツウロコグリーンエネルギー株式会社において福岡市に九州支店を開設し、引き続き販売拡大に努めてまいりました。その結果、売上高は前年同期比55.6%増の115億円、営業利益は前年同期比41.0%増の2億48百万円となりました。

(フード&プロビジョンズ事業)

平成29年4月に3号店となる「カールスジュニア自由が丘レストラン」をオープンしたことに加え、ベーカリー「麻布十番モンタボー」やカフェ「元町珈琲」、両ブランドのノウハウを踏襲した新ブランド「モトマチ コーヒーアンドブレッド」を運営する株式会社スイートスタイルが当社グループに加わり、更なる事業の拡大をいたしました。飲料水事業では、引き続き販路拡大により販売量増加をはかっております。これらにより、売上高は前年同期比30.8%増の25億56百万円、営業損益は前年同期比64百万円悪化の32百万円の営業損失(前年同期は32百万円の営業利益)となりました。

(PM/健康・スポーツ事業)

健康・スポーツ事業では、オープン9年目を迎える横浜駅西口複合商業施設「HAMABOWL EAS(ハマボールイース)」において、全館キャンペーン、飲食店キャンペーンを開催いたしました。直営事業である温浴施設「SPA EAS(スパイアス)」では、新たにコミックルームを設置するなど、ボウリング場「Hamabowl(ハマボール)」とあわせ、更なるおもてなし品質向上に努め、Web集客にも注力しました。また、PM(不動産賃貸)事業では、マンションやオフィスビルの入居率向上をめざしリノベーション等施策を積極的に推進した一方で、昨年度に賃貸用不動産の入替を行ったことにより、不動産賃貸収入は減少いたしました。その結果、売上高は前年同期比0.8%減の6億53百万円、営業利益は前年同期比4.0%増の1億7百万円となりました。

(その他事業)

リース事業における取扱高の減少及び前年度に計上していた中途解約に伴う売上増の影響等により、売上高は前年同期比18.5%減の7億22百万円、営業利益は前年同期比14.1%減の53百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して36億9百万円減少の1,279億27百万円となりました。減少の主な要因としては、受取手形及び売掛金の58億31百万円の減少等によるものです。

(負債)

負債は、前連結会計年度末と比較して37億47百万円減少の533億7百万円となりました。減少の主な要因としては、支払手形及び買掛金の36億46百万円の減少等によるものです。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末と比較して1億37百万円増加の746億19百万円となりました。増加の主な要因としては、その他有価証券評価差額金の6億84百万円の増加等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、原油価格及びLPGガスの仕入価格の動向並びに市場の動向によっては厳しい状況も想定されておりますが、平成29年5月9日の決算発表時に公表した数値を修正しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	35,092	34,949
受取手形及び売掛金	18,381	12,549
商品及び製品	4,263	3,921
原材料及び貯蔵品	284	337
繰延税金資産	551	424
その他	6,994	7,754
貸倒引当金	△264	△242
流動資産合計	65,304	59,694
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,472	10,480
機械装置及び運搬具(純額)	6,462	6,301
土地	15,191	15,206
建設仮勘定	602	581
その他(純額)	2,033	1,980
有形固定資産合計	34,761	34,550
無形固定資産		
のれん	1,647	2,988
その他	1,582	1,462
無形固定資産合計	3,229	4,451
投資その他の資産		
投資有価証券	19,845	20,948
繰延税金資産	756	743
その他	8,547	8,547
貸倒引当金	△935	△1,044
投資その他の資産合計	28,214	29,195
固定資産合計	66,205	68,197
繰延資産		
開業費	27	35
繰延資産合計	27	35
資産合計	131,537	127,927

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,744	13,097
短期借入金	6,852	6,209
未払法人税等	652	77
引当金	870	433
その他	4,268	5,841
流動負債合計	29,388	25,659
固定負債		
長期借入金	14,396	13,923
繰延税金負債	4,376	4,669
その他の引当金	311	277
退職給付に係る負債	2,278	2,257
資産除去債務	1,053	1,205
その他	5,250	5,315
固定負債合計	27,667	27,648
負債合計	57,055	53,307
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,077	7,077
資本剰余金	5,836	5,836
利益剰余金	58,344	57,831
自己株式	△3,291	△3,291
株主資本合計	67,966	67,454
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,771	7,456
繰延ヘッジ損益	△413	△418
退職給付に係る調整累計額	△192	△183
その他の包括利益累計額合計	6,165	6,854
非支配株主持分	350	311
純資産合計	74,482	74,619
負債純資産合計	131,537	127,927

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	44,313	44,828
売上原価	37,028	37,356
売上総利益	7,284	7,472
販売費及び一般管理費	6,477	6,838
営業利益	807	633
営業外収益		
受取利息	8	7
受取配当金	146	162
持分法による投資利益	158	170
受取補償金	32	34
その他	82	128
営業外収益合計	428	502
営業外費用		
支払利息	94	89
デリバティブ損失	12	19
その他	29	29
営業外費用合計	136	137
経常利益	1,098	999
特別利益		
固定資産売却益	2	—
投資有価証券償還益	41	—
特別利益合計	43	—
特別損失		
固定資産売却損	0	—
固定資産除却損	15	16
投資有価証券評価損	0	—
特別損失合計	15	16
税金等調整前四半期純利益	1,127	983
法人税、住民税及び事業税	261	209
法人税等調整額	95	150
法人税等合計	356	360
四半期純利益	770	622
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△5	4
親会社株主に帰属する四半期純利益	775	618

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
四半期純利益	770	622
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△468	687
繰延ヘッジ損益	4	6
退職給付に係る調整額	9	9
持分法適用会社に対する持分相当額	△94	△13
その他の包括利益合計	△550	689
四半期包括利益	220	1,312
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	225	1,307
非支配株主に係る四半期包括利益	△5	4

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 事業 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	エネル ギー事 業	電力事業	フード& プロビジ ョンズ事 業	PM/ 健康・ スポーツ 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	33,420	7,392	1,954	658	43,427	886	44,313	—	44,313
セグメント間の内部売上高又は振替高	26	42	1	5	75	5	81	△81	—
計	33,446	7,435	1,955	663	43,502	892	44,394	△81	44,313
セグメント利益	776	175	32	103	1,088	62	1,150	△343	807

(注) 1. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、煉炭・豆炭等の販売、リース業、保険代理店業及び他サービスの販売を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△343百万円には、セグメント間取引消去△2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△304百万円及びその他調整額△36百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 事業 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	エネル ギー事 業	電力事業	フード& プロビジ ョンズ事 業	PM/ 健康・ スポーツ 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上 高	29,396	11,500	2,556	653	44,106	722	44,828	-	44,828
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	9	43	1	3	58	44	103	△103	-
計	29,405	11,544	2,558	657	44,165	767	44,932	△103	44,828
セグメント利益又 は損失(△)	505	248	△32	107	828	53	882	△248	633

(注) 1. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、煉炭・豆炭等の販売、リース業、保険代理店業及び他サービスの販売を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△248百万円には、セグメント間取引消去△7百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△241百万円及びその他調整額△0百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。